

UEFIの設定と「Wake on Lan」に挑戦、テザリングにも挑戦

JJ1SXA/池

「PCを起動したり、周辺機器の入出力をコントロールするための基本的なソフトウェアとして、永らくBIOSが使われてきたが、BIOSに代わって、UEFIへと世代交代が進みそうだ、BIOSはその役割を終えつつある」との文章を読んだ、何時書かれたのか知らないが、私には結構ショッキングな記事だった。

そもそもが、パソコンに触り始めた頃、「BIOS」は初心者はいじってはいけないと言われ、その言葉は頭にこびりついている、必要に迫られて、たまには、恐る恐る触ってきたが、理解しきれていない「BIOS」が、「UEFI」に変わるとのこと、ますますついていけません。

UEFIは、「Unified Extensible Firmware Interface」の略で、BIOSは、「Basic Input/Output System」の略だ、UEFIは、PCの電源ON時に、OS(WindowやLinux等)の起動より前に起動し、PCの起動プロセスを制御するプログラムで、BIOSの後継として考え出された規格とのこと、説明文を読んだだけで頭が痛くなる。

前号(第100号・3月11日発行)の記事「スマホデビュー&スマホをハンディ機に(リモートシャック運用)」の最後に、『次は、「Chromeリモートデスクトップ」と「Wake on Lan」に挑戦だ、スマホから自宅PCの電源オンができて、即リモートも可のようだ、ハードルは高いようだが何とかやってみよう、成功すれば次号の記事に。』と書いている。

それで、「Wake on Lan」に挑戦することにした、同じLAN上にある端末(スマホ)からパケットを送り、離れた場所にあるパソコンの電源を操作するのだ、リモート操作されるパソコン側の設定は、UEFI画面から設定しろとのこと、ここで初めてUEFIなる言葉に接した、それで一寸調べたのが上記内容だ。

あらら、これは大変、挑戦は止め！という気持ちになったが、ボケ防止のために時間がかかっても、矢張りやってみる価値ありと、気持ちを持ち直して挑戦だ。

とりあえず、UEFIの設定をインターネットで検索、以下の手順を確認し、忠実にその通りに実行した。

- 1.「スタートボタン」を押す
- 2.「設定ボタン」を押す
- 3.「更新とセキュリティ」を押す
4. 左側のメニューで「回復」を選択
- 5.「PCの起動をカスタマイズする」の「今すぐPCを再起動する」を押す
- 6.「トラブルシューティング」を選択
- 7.「詳細オプション」を選択
- 8.「UEFI ファームウェアの設定」を選択

以上の手順でPCが再起動され、UEFI画面が表示された、ここまでは順調だ、ちょろいちょろいと思ったが大間違い、ここで、「Boot From Onboard Lan」を有効にしろということだが、そんな項目は見当たらない、これだからパソコン初心者はお手上げになる。

だが、再度気を取り直し、上段のメニューを見ると、ずっと右に、「Boot Options」という項目がある、ここを選択、いくつかの項目があるが、これかなと思う項目を「Enable」にして、「Exit」クリック、良くわからないままに、「Yes」クリック、「Enter」クリックで再起動された。

これで良さそうだ、次は、デバイスマネージャーで、「このデバイスで、コンピュータースタンバイ状態を解除できるようにする(O)」と「Magic Packet でのみ、コンピュータースタンバイ状態を解除できるようにする(N)」にチェックを入れるということだ。

デバイスマネージャー画面で、適当にこれかなと目を付けた、「ヒューマンインターフェース」をクリック、開いた画面から、「HID準拠コンシューマー制御デバイス」をクリック、「電源の管理」選択で、「このデバイスで、コンピュータースタンバイ状態を解除できるようにする(O)」にチェックを入れた。

いよいよ最終段階だ、デバイスマネージャー画面で、「ネットワークアダプター」を選択、「Realtec PCIe GBE Family Controller」をクリック、「電源の管理」をクリック、「Magic Packet でのみ、コンピュータースタンバイ状態を解除できるようにする(N)」にチェックを入れてOKボタンを押した後、デバイスマネージャー画面を終了、これで操作されるパソコン側の設定は完了のようだ、やれやれ。(簡単そうに書いたが、実際は大変だった)

次は、スマホ側の設定だ、とりあえず、アプリ「Wake on Lan」をインストール、最初の起動で、画面の「+」をタップ、続いて「デバイスの追加」をタップして開いた画面で、操作するパソコンを指定するのだが、インストールは簡単にうまくいったものの、次の「+」をタップしたら、「接続先がありません、リモート接続に使用するパソコンを最初に設定しておく必要があります」とのインフォ、操作されるパソコン側の設定は完了しているのに何故だ？

またまた頭が痛い！「Wake on Lan」は諦めかと思ったが、はっと気が付いた、我が家のLAN環境は、有線LANと無線LANの混在で、操作される側のパソコンは現在有線LANだ、同じLAN上にあるパソコンが対象ということは、このパソコンは対象外だ、改めて無線LANに接続、スマホでうまくいくか、いかないかだ、祈る気持ちで、スマホのアプリ「Wake on Lan」をタップ、「+」をタップ、やったーです、パソコンが検出されました、これで、このパソコンのオン・オフがリモートで可になりました、次は、「Chromeリモートデスクトップ」だが、「TeamViewer」で遠隔操作ができていたので、先に「テザリング」だ。

スマホはテザリング機能(自分のスマホをアクセスポイントにしてパソコン等をインターネットへ接続できる機能)があるので便利だ、テザリングには、Wi-Fiテザリング、USBテザリング、Bluetoothテザリングの3つの方法がある。

Wi-Fiテザリングは、スマホの端末本体の設定を開いて、テザリングの項目を選択、Wi-Fiテザリングを有効にして、デスクトップから、ネットワークアイコンをクリックして接続先一覧を開き、Wi-Fiテザリングをオンにしたスマホの機種名が表示されているので、クリックして接続を選択、「Wi-Fiテザリング設定」画面で確認できるネットワークセキュリティキーを入力して、次へをクリックでOKだ。

USBテザリングは簡単だ、スマホのUSBテザリング設定をオンにした状態でスマホとパソコンをUSBケーブルで接続すると、自動で機器を検出してくれる、私のUSBケーブルは、エレコム製のU2C-AMBF2U02WHだ、ケーブルのコネクタータイプは、片側A、もう片方はMicroBとなっている、20センチと短い、一寸贅沢に、フェライトコア付だ。

Bluetoothテザリングは、電池には優しいが速度に問題ありとのことなので、やらないことにする、このAndroidスマホの「らくらくホン4」も、結構使えるようになったが、まだまだ使いこなしの域は遠い、何がシニア向けだ、頑張らなければ！